

学

園

長

だ

よ

り

第14回

光り輝く舞台

愛知淑徳学園理事長・学園長

小林素文



祝賀会で鏡割をする三同窓会長



愛知淑徳学園創立百十周年記念祝典コンサートは、八月三日、日本特殊陶業市民会館にて、盛大裡に終えることができました。

名古屋フィルハーモニーの人たちと共演するというまたとない機会を得て、必死に、ひたむきに演奏する生徒・学生達、それに呼応するかのよう真剣なプロの演奏者達、それを引き出してくれた躍動感あふれる指揮者。二四〇〇人満席の聴衆を感動させてくれた「チャイコフスキー五番」が終了すると、ブラボーの声ががり、拍手が鳴りやみませんでした。

こうした素晴らしいコンサートができたのは、半年以上ひたむきに練習を重ねてきた生徒・学生達の「淑徳魂」によることは勿論ですが、それを引き出してくれたのは、演奏指導をして下さった名古屋フィルハーモニーの楽団員の皆さん、そして、今、注目の若手指揮者として多忙を極めているにもかかわらず、二度も学校に来て楽曲指導をして下さった川瀬賢太郎氏です。心よりの御礼を申し上げたいと存じます。

華やかな舞台には必ず優れた裏方がいます。コンサート全体の企画とプロデュースをしてくれた本学の河辺教授、適切に生徒・学生の世話をしてくれた顧問の先生方、そして、日常の忙しい仕事をかかえながらも、プログラムや招待者リストの作成、席決め、発送、当日の案内などを見事に取り仕切ってくれた教職員、満席にすることを度胸と愛嬌で引き受けて下さった同窓会役員、こうした縁の下での力持ちの皆さんに支えられ、素晴らしい舞台が生まれたのだと感謝にたえません。

学園の歴史とは、生徒・学生達が光り輝いている舞台を作ろうと、先生が教え育み、職員が縁の下での力持ちとなり、ご父母が見守り、同窓生が応援している、こうした日々の積み重ねといえましょう。幾多の時代を背景にして、光り輝く舞台が絶えることなく続いてきた百十年間に

及ぶ年月は、真に貴く重みがあります。学園の歴史を築いて下さった全ての方にお礼を申し上げます。

カザフスタンという国のことわざに、「昨日より遠いものはない、明日よりも近いものはない」があります。

昨日も明日も今日からの時間的な距離は同じでも、昨日は二度と戻ってこない遠いもの、明日は確実にやってくる近いもの、だから、思い出は大切にしつつも、よりよい明日に向かって進んでいこう、ということでしょう。

素晴らしいコンサート之余韻に浸りつつも、一日二日を大切に歴史を積み重ねてまいります。

としつむや年々に年の美しき(士朗)

PTA、後援会の皆様をはじめ関係各位におかれましては、これまでの御支援に感謝を申し上げますとともに、今後とも宜しくご指導のほどお願い致します。